

平成25年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	社会人学び直し大学院プログラム		担当部局庁	高等教育局		作成責任者	大学振興課長 里見 朋香		
事業開始・終了(予定)年度	事業開始：平成26年度 終了(予定)：平成26年度		担当課室	大学振興課大学改革推進室					
会計区分	一般会計		政策・施策名	個性が輝く高等教育の振興 IV-1 大学などにおける教育研究の質の向上					
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—		関係する計画、 通知等	我が国の若者・女性の活躍推進のための提言(平成25年5月19日) これからの大学教育等の在り方について(第三次提言)(平成25年5月28日) 日本再興戦略(平成25年6月14日閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針(平成25年6月14日閣議決定)					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	知識基盤社会における産業構造の変化や企業ニーズに即した社会人の学び直し機会の拡大を通じ、社会人一人ひとりが自分の能力を最大限発揮できるようにするなど、その活躍を推進し、世界を相手に渡り合える能力や、イノベーションを創出する資質等を獲得していくことができる環境整備を実現する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	大学における、産業界との協働によるオーダーメイド型の高度な教育プログラム(大学院レベル)の開発等を支援(定額補助:100/100)し、グローバル社会での高度な職務実施能力、イノベーションの創出に必要な資質の獲得等といった、高度な技術や知識の習得、専門知識・能力のスキルアップを目的とした社会人の「学び直し」を推進する。								
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算						1,001	
		補正予算							
		繰越し等							
	計							1,001	
	執行額								
執行率(%)									
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標				単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (26年度)
	本事業により開発・実施される、産業界との協働によるオーダーメイド型の高度な教育プログラム(大学院レベルの履修証明プログラム)の増加			成果実績	件	-	-	-	平成26年度予算上の取組支援件数
				達成度	%	-	-	-	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	開発・実施件数			活動実績	件	-	-		※26年度の活動見込である。
				(当初見込み)		-	(-)	(-)	(50)
単位当たり コスト	20 (百万円/件)			算出根拠	単位当たりコスト =26年度要求額(1,000百万円)÷取組支援件数(50件) ※事務費除く				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由					
	大学改革推進等補助金	-	1,000百万円	「新しい日本のための優先課題推進枠」1,000百万円					
	大学改革推進等補助金事務費	-	1百万円						
計	-	1,001百万円							

事業所管部局による点検						
項目			評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	本事業で行うこととしている、高度な人材の育成を目的とした、産業界との協働によるオーダーメイド型の教育プログラムの開発・実施については、教育再生実行会議、若者・女性活躍推進フォーラムといった政府提言のみならず、「日本再興戦略」、「経済財政運営と改革の基本方針」といった閣議決定において、若者等の活躍推進等を実現するための方策として明記されており、国が実施すべき優先度の高い事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		—	国公立大学を通じた競争的環境の下、重点支援を行うことで、費目・使途は事業目的に即し、真に必要なものに限定されているといえる。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		—			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	高度な人材の育成を目的とした、産業界との協働によるオーダーメイド型の教育プログラムの開発・実施を行うとする大学に対して支援を行うものであり、他の主体を通じて支援を行うなどの場合に比べて、効果的・効率的な事業となっている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		—			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		—			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	<p>・本事業の実施については、「国費投入の必要性」でも述べたように、教育再生実行会議、若者・女性活躍推進フォーラムといった政府提言のみならず、「日本再興戦略」、「経済財政運営と改革の基本方針」といった閣議決定において、若者等の活躍推進等を実現するための方策として明記されており、事業内容もこれらに即したものとなっている。</p> <p>・本事業の実施により、知識基盤社会における産業構造の変化や企業ニーズに即した社会人の学び直し機会の拡大を通じ、社会人一人ひとりが自分の能力を最大限発揮できるようにするなど、その活躍を推進し、世界を相手に渡り合える能力や、イノベーションを創出する資質等を獲得していくことができる環境整備の実現が期待される。</p>					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
本事業は、成果目標及び活動指標も立てられ、事業効果についても適切に検討されており、広く国民のニーズに応える事業であると考えられることなどから、当省の事業として実施することが適切かつ必要と認められる。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	-	平成23年	-	平成24年	-

※当該資金の流れは、予算積算上において想定される資金の流れを記入したものであり、実際の資金の流れとは異なる可能性がある。

文部科学省
1,001百万円

・諸謝金 0.5百万円
・委員等旅費 0.4百万円
・庁費 0.6百万円 } を含む。

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。

大学における、産業界との協働によるオーダーメイド型の高度な教育プログラム(大学院レベル)の開発等を支援。



【公募・補助】

A. 大学等(全50件)
1,000百万円

社会人の学び直し機会の拡大を通じ、社会人一人ひとりが自分の能力を最大限発揮できるようにする環境整備を実現し、社会人の「学び直し」を推進

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.大学(全50件)			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
事業費	社会人学び直し大学院プログラム	1,000			
計		1,000	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0